岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

Q熱（コクシエラ症）の疫学及び診断法の開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平井, 克哉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/282

研究報告書の刊行にあたって

本報告書は文部省科学研究費補助金基盤研究（A）「Q熱 (コクシエラ症) の疫学及び診断法の開発」の平成７、８および９年度（課題番号07306015）の研究成果報告書である。

Q熱(コクシエラ症)はQ熱リケッチア*Coxiella burnetii*の感染によって起こる人獣共通感染症で、欧米に広く分布しているが、我が国には存在しないといわれていた。感染宿主は家畜、愛玩動物、野生動物や鳥類など極めて広く、流産や繁殖障害などの生産病を起こし、長期間乳汁や糞便などに大量の病原体を排泄する。ヒトのQ熱は経気道や経口で感染し、急性の熱性疾患(肺炎)から慢性の肝炎や心内膜炎などを起こすため、古くから重要な疾病として関心が高く、欧米では現在でも多くの集団発生例が報告されている。

本研究の第1の目的は、ヒトをはじめ哺乳類、鳥類およびダニについて、広汎に病原体および抗体分布を調査し、Q熱およびコクシエラ症の疫学実態を明らかにすること、第2は酵素抗体による新しい血清診断法やDNAプローブによる新しい病原体検出法など早期確定診断法を開発すること、第3は分離 *C. burnetii*の免疫化学的抗原解析および病原性支配遺伝子の解析を行い、ヒトや動物に感染・発症させるQ熱リケッチアは、どのような遺伝的特徴を持つのか分子レベルで明らかにすること、第4はヒトをはじめ哺乳類・鳥類・ダニ由来*Coxiella*を分類あるいは細分類し比較医学の立場からの基礎資料を得ることである。

我々は上記の所期の目的をほぼ達成することができた。すなわち、日本にも気管支炎、肺炎、肝炎、髄膜炎、髄膜脳炎など多彩な病像を示す急性Q熱患者および心内膜炎や肝炎など慢性Q熱患者が広く存在することを疫学的に明らかにした。また、家畜、伴侶動物、野生動物、家禽および野鳥にも本菌が広く浸潤し、感染源になる可能性を明らかにした。日本分離株には病原性の異なる*C. burnetii*が存在することを蛋白質やLPS構造の免疫化学的および遺伝学的解析から示唆した。さらにQ熱の新しい簡便な診断法を開発した。

今後本邦におけるQ熱のより詳細な実態を解明するには、一般市民をはじめ医師や獣医師などにQ熱に対する知識や診断法の普及をしなければならない。また、ヒトのQ熱や動物のコクシエラ症に関する詳細な疫学的調査および研究体制は勿論、サーベイランスシステムや予防対策の確立などは"国"、厚生省および農林水産省として急務であろう。

本研究班の班員および協力者の精力的な研究によって、初めて明らかにされた事実が、本研究の内容に多数含まれております。研究代表者として、これらの先生方に厚く感謝する次第です。また、各県の衛生部および農政部の各位のご協力を心からお礼申し上げます。最後に、報告書刊行にあたって文部省当局のご尽力に厚く感謝いたします。

研究代表者　平井克哉